

2015 年度後期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—社会イノベーション学部—

社会イノベーション学部長 古川 良治

2015 年度前後期授業評価アンケートにおいて、評価項目 14 のうち 10 項目において 5 点尺度で 4 点以上を得ており、概ね良い評価を得ていると考えられる。これは、昨年度ならびに 2015 年度前期の結果と同様の傾向である。全体の評価である「総合的にこの授業を評価できる(4.23)」をはじめ、「この授業によく出席した(4.52)」、「教員は授業時間を有効に利用した(4.22)」、「シラバスと内容が一致していた (4.22)」、「授業への教員の熱意を感じた(4.21)」、「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた(4.18)」などにおいて、比較的高い評価を得ていた。一方、4 点に達しなかった評価項目は、「授業中意欲的に取り組んだ(3.99)」、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった(3.97)」、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した(3.81)」、「予習または復習をよくした(3.25)」であった。2015 年度後期授業評価においても、ほぼ同様の結果となっていた。

次に、2015 年度前後期授業評価アンケートにおいて「総合的にこの授業を評価できる」との相関係数は、0.78 から 0.13 となっており、総合的な評価に影響を及ぼす項目とそうでない項目とに分かれている様子がうかがえる結果となっていた。これは、2015 年度後期授業評価においても、ほぼ同様の結果となっていた。このうち、2015 年度前後期授業評価アンケートにおいては、「授業への教員の熱意を感じた」($r=0.70$)、「シラバスと内容が一致していた」($r=0.63$)、「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた」($r=0.63$)、「教員は授業時間を有効に利用した」($r=0.60$)については、評価得点でも比較的高く評価されていた項目であり、今後も同様の取り組みを継続することが望ましいと考えられる。一方、最も相関係数が高かった「この分野の関心と学力が得られた」($r=0.78$)については評価平均値が 4.11 であり、14 項目の中では中程度となっていた。また、比較的相関係数が高かった「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」($r=0.64$)については評価平均値が 3.97 と、4 点を下回っており、これらの項目については今後の授業運営において留意していくことが望まれる。